

地方創生推進交付金事業「スマイルシティ山陽小野田 活力と笑顔あふれるまちづくりプロジェクト」の進捗及び重要業績評価指標（KPI）の達成度の状況について

（1）概要

本市の誇る地域資源である「焼野海岸一帯」、「山口東京理科大学」、「かるた」を最大限に活用し、その魅力を市内外に発信していくことにより地方創生に取り組む。

（2）具体的取組

① シティセールス及び「焼野海岸一帯」の魅力を活用した観光振興事業

「スマイルシティ山陽小野田」のロゴの制作を行うとともに、シティプロモーション広告等により本市の魅力を市内外にPRする。また、「焼野海岸一帯」を中心とし、専門業者によるマーケティング等を実施し、誘客ターゲットを絞って戦略的なプロモーションを実施する準備を行い、以降、観光資源の有効活用や整備、情報発信の強化等を行っていきることにより、交流人口の増加を図る。さらに市民や本市を訪れた方に対して、市民参画による「演出を加えたPR」でまちの魅力を発信し、市民の地域や市に対する誇りと愛着の醸成を進める。

H30	<ul style="list-style-type: none"> ・「PRロゴ」（スマイルマーク）作成 ・シティプロモーション広告の掲出（厚狭駅新幹線口） ・観光プロモーション調査
R1	<ul style="list-style-type: none"> ・シティセールス用ガイドブックの作成 ・シティプロモーション広告の掲出（継続） ・観光を中心としたシティプロモーション動画・パンフレットの作成 ・シティプロモーション動画の配信 ・市民参画による「演出を加えたPR」（スマイルハロウィン）でまちの魅力発信
R2	<ul style="list-style-type: none"> ・シティプロモーション広告の掲出（継続） ・観光旅行関係雑誌への記事・広告等の掲載 ・市民参画による「演出を加えたPR」（スマイルハロウィン）でまちの魅力発信（継続）

② 山口東京理科大学を活用したまちづくり事業

市、大学、商工会議所が「産学官連携協議会」を設置し、大学と地元企業による共同研究や企業誘致などで産業力を強化することにより、雇用の拡大等による定住人口の増加につなげる。

H30	<ul style="list-style-type: none"> ・「産学官連携フォーラム」の開催 ・研究事例集の作成 ・「薬学フォーラム」の開催
R1	<ul style="list-style-type: none"> ・企業立地フェアへの出展 ・「薬学フォーラム」の開催（継続）
R2	<ul style="list-style-type: none"> ・「企業立地フェア」への出展（継続） ・「薬学フォーラム」の開催（継続）

③ 文化（かるた）を活用したまちづくり事業

かるた教室を開催し、競技人口の増加を図るとともに、永世クイーンによる模範試合・講演会や

かるた大会を実施することにより、市内外に文化（かるた）の分野から PR を行い、本市の知名度の向上や郷土愛の醸成、交流人口の増加を図る。

H30	・「かるた教室」の開催
R 1	・「かるた教室」の開催（継続） ・「かるた大会」の開催
R 2	・「かるた教室」の開催（継続） ・かるた「永世クイーン」による講演会・競技デモンストレーション

(3) 重要業績評価指標(K P I)

	「焼野海岸一帯」 (きららビーチ焼野、竜王山公園)の 観光客数		山口東京理科大学学生 の市内就職率		魅力度 市区町村 ランキング		「オレンジ月間中の イベントで魅力づくりや情報発信」に参 画する市民の数	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
当初	46,708	46,708	4.5	4.5	960	960	—	—
H30	49,038	43,168	6.0	6.39	868	805	—	—
R 1	54,038		7.8		776	923	200	237
R 2	64,038		10.0		684		450	
達成 状況	現在のところ達成 できてない。		現在のところ達成し ている。		現在のところ達成 できてない。		現在のところ達成し ている。	

(4) K P I の達成状況を踏まえた事業の改善

	改善内容	改善につながる理由
① シティ セールス及 び「焼野海 岸一帯」の 魅力を活用 した観光振 興事業	小倉駅へのシティプ ロモーション広告の 掲出	観光プロモーション調査の結果、本市の観光振興のターゲットとして県内近隣市や北九州市の市民を設定することが効果的であることが分かった。小倉駅は、北九州市民のみならず県内の近隣市からも、ショッピング等を目的に多くの乗降客が行き来している。ここにシティプロモーション広告を掲出することで、より多くのターゲットに本市の魅力を知ってもらうことができる。
② 山口東 京理科大学 を活用した まちづくり 事業	「スマイルエイジ ング」と連携した薬学 フォーラムの開催	薬学部を活かし地方創生につなげるため、スマイルの源である「心身の健康」を保ち、誰もが笑顔で年を重ねていけるよう「スマイルエイジング」の取組を開始した。この取組と連携させ、薬学フォーラムをより大規模に開催することで、薬学部の取組を市内外へ更に周知することができる。
③ 文化(か るた)を活 用したまち づくり事業	「かるた「永世ク イーン」による講演会・ 競技デモンストレー ション」の大規模化	1・2年目に実施する「かるた教室」及び「かるた大会」の取組を披露するなど、3年間の事業の集大成として大規模に開催することで、かるたの魅力や「かるたの山陽小野田」の認知度を向上させることができる。